

今までの取り組み・これからの課題

協働の まちづくり 通 信 簿

市では、平成23年度から「市協働のまちづくり推進計画」に基づき、市民・地縁による団体・市民活動団体・事業者と市によるまちづくりを進めています。

平成28～32年度を計画期間とする後期実行計画の取り組み状況について、市協働のまちづくり推進委員会から総括意見の提出がありました。主な内容をお知らせします。

※紙面の都合上、意見は抜粋して掲載しています。

市民活動推進課 ☎(93) 1117



総括



後期実行計画（平成28～32年度）も2年目を終え、おおむね計画どおりに推進されたと感じています。

平成29年度は、地域資源の掘り起こしプロジェクトの第二弾として、市民活動や人の魅力に焦点を当てた富里PR動画（写真①）を制作しました。市民活動団体や市民など約800人が撮影に参加し、振り付けから撮影・編集に至るまで、全て市民ボランティアによって制作されました。これは、協働のまちづくりの取り組みが市民に広く周知できる良い機会となったと思います。

しかし、協働による取り組みを身近なものにするためには、協働に関する情報を分かりやすく発信し続けることが大切となります。

今後も継続して市の広報やホームページ、サポートセンターのニュースレターなどを利用して、多くの情報を発信し、協働が浸透するように工夫が必要です。

環境づくり

協働のまちづくりの環境づくりについては、年数も経過し整備されたと思います。今後は、市の地域課題について具体的な協働の事業に取り組みるように、切り替えが必要な時期であると思います。

まちづくりコーディネーターの育成及び充実

コーディネーターについては、専門家の指導が素晴らしい力量を発揮していると評価でき、個々のスキルは間違いなく向上していると思います。今後も引き続きコーディネーター育成の実績を有するNPO法人へ委託を継続していくことを希望します。

また、コーディネーター自身も常に新しい事に挑戦し、積極的に地域に出て情報収集を行い、自身のスキルアップに努めてほしいと思います。

市民活動支援基金の検討

市民活動支援基金の充実のために考えられた、「ちいかり」地域のために小さな寄附から（写真②）は非常に良いアイデアだと思います。引き続き、市民が多く参加するイベントなどで広くPRをし、市民活動を支援するための財源を確保してほしいと思います。

今後は「ふるさと納税」だけに頼る考え方ではなく、「ちいかり」の知名度アップを図るとともに、基金の充実につけていただければと思います。

さらに、管理運用する組織として、新たな市民活動支援基金の設立の検討も必要ではないかと思っています。

担い手づくり

協働のまちづくり講座の開催

「夏休み！小学生ボランティア体験」講座（写真③）は、今後も地道に続けて

いければいいと思います。さらに、多くの小学生に体験してもらうために、より具体的な体験プログラムのアイデアの提案と併せて、参画を促す活動を展開することで、講座の充実を図っていただければと思います。

メカワウロコセミナーの講座内容を検討するに当たり、登録グループの意見をリサーチしたうえで、講座を実施するとより良い講座になるのではないかと思います。

講座の内容、対象者の年齢層をはっきりさせ、受講者個々のスキルに応じた講座を開設することが必要ではないかと思っています。

情報の提供・共有

市民活動団体などによる講座の検討

市内の団体などに、市民活動団体などが講師を派遣する、「架け橋」市民活動出前講座」の要綱が整備され、利用が見込まれる団体への働きかけと、サポートの橋渡しに期待したいと思っています。サポートセンターは、講座が一定の地域や団体に偏らないよう実施できるように注視してください。

市民活動団体が、その団体の持っている専門性、スキルを他の人に伝えるために他団体との交流があってもいいと思います。

今後は、市民講師の派遣を希望する団体の洗い出しを行い、市内の市民活動団体とお見合いをサポート・コーディネーターをし、講座を行うことができる団体の掘り起こしに力を注いで欲しいと思います。

市広報紙及びホームページの充実

現在の市のホームページの内容ではつまらない、また、新聞購読者が減少して、市の広報紙を見ない人が増えてきています。もっと興味を引く方法の掲載が必要となってきました。そのため、ホームページ、フェイスブック、

インスタグラムなどをいかに魅力的にするかが大事になってきています。

市の広報に協働のまちづくりの特集枠を設けて、毎回活動事例を紹介するなど、引き続き紙面の許す限り、日々タイムリーな情報の更新に努めていただきたいと思っています。

市政への参画

市民提案機会の拡充

市民が何を思い、何を市政へ求めているかを知る場として、ふれあいミーティングを開催することは、とても良いと思います。今後は、さらに充実できるように、他の行事と同時開催するなど、地域を分けて年4～5回開催できるように検討をお願いしたいです。

末廣農場の利用計画などの大きな行政課題は、市役所内部だけでは打開できないと思います。市民の参加を求め、市と市民が協働で作業を進めるなども一案かと思っています。

市の体制について

職員研修の実施

市にこれから求められているのは、小規模多機能自治体だと思います。職員研修では、市の課題解決に向けて全員で取り組むよう指導願います。

また、若い世代の職員よりベテランの職員の意識を変える必要があると思います。協働を理解するための研修を実施し、良い事例があれば具体的に市民と共に学んでほしいと思います。

市の将来ビジョンを話し合う富里未来会議をスタートするなど、市民活動の現場に職員が参加してみて問題点を探ったり、市とつなげたりフォローしたりすることで、市民活動団体などが実力をつけ、市との協働事業のパートナーとなり得る可能性が生まれると思います。